令和８年度　第一回札幌市文化芸術創造活動支援事業等評価検証委員会　議事概要

１　日　時
令和８年９月１７日（木）　１０時３０分から１２時００分まで

２　出席者
⑴　委員
・　本田　修　（元国際交流基金文化事業部長）
・　右谷　誠　（札幌市芸術文化財団市民交流プラザ事業部　センター事業部長）
・　山本　麻友美（公益財団法人京都市芸術文化協会創造連携推進グループディレクター）
・　吉本　光宏　（合同会社文化コモンズ研究所代表）
・　若林　朋子　（プロジェクト・コーディネーター、立教大学大学院社会デザイン研究科特任教授）
⑵　事務局
・　成澤　元宏　（市民文化局文化部長）
・　犬飼　やよい（市民文化局文化部事業調整担当課長）
・　大沼　孝彰　（市民文化局文化部文化振興課調整担当係長）
・　小川　桜　（市民文化局文化部文化振興課振興係）

３　議　題
⑴ 令和6～8年度創造活動支援事業の公募状況について(参考報告)
⑵ 令和8年度札幌市文化芸術創造活動支援事業の採択事業について(議題1)
⑶ 提言書作成に向けて(札幌市の現状分析と札幌版アーツカウンシルに必要な要素)(議題2)
⑷ ワーキンググループについて(議題3)

４　議　事
◎　開会
事務局（犬飼事業調整担当課長）の司会進行により、委員全員の出席を確認した。
⑴　令和6～8年度創造活動支援事業の公募状況について(参考報告)
【説明概要】
- 事務局より、3か年の応募状況についてあらためて報告を行った。

【主な意見】
- 一度落選した団体は、再度の申請はあまりしていないように見受けられる。今後の支援の検討にあたっては、こういった団体にも目を向けられたい。
- 当事業に取り組むことのできる体力を持ち合わせている団体は限られていると思う一方で、中間支援を担う人材を育てる実例が生まれてきていると感じる。

⑵　令和8年度札幌市文化芸術創造活動支援事業の採択事業について(議題1)
【説明概要】

- 事務局より、令和8年度採択事業の進捗状況について報告を行った。

【主な意見】

- 過年度の採択事業に参加していた方が別の形で今年度の事業に参加しており、様々な形で繋がりが生まれていることは良いこと。
- 事務局と採択団体が良い関係性を築けているため、他の団体にも広げていってほしい。

⑶　提言書作成に向けて(札幌市の現状分析と札幌版アーツカウンシルに必要な要素)(議題2)

【説明概要】

- 第1回委員会で上がった意見を「札幌市の現状分析」としてまとめ、これを踏まえ、この現状を改善するために必要な要素の事務局案を提示した。

【主な意見】

- プレイヤーとしてアートに関わる人たちが政策立案などの局面にコミットできる仕組みが必要だと感じる。
- 言葉が先行して実際の方法が見えにくくならないよう現実的な言葉に落とし込んだほうがいい。
- アーツカウンシルを小さく考えすぎている。アーツカウンシルを新たに立ち上げるのであれば、大きな主軸を持つべき。
- アーツカウンシルがなぜ文化政策に必要なのかという議論なしでどんな機能を備えるべきかというところだけ進めてしまうと、地域や文化政策とどう繋がるのかということが何も話されないまま組織だけができてしまうという懸念がある。
- アーツカウンシルは地域にひらかれた組織であるべき。
- 現場の実践知から見えたことをどのように文化政策につなげていくか、その回路をどう作っていくか検討されたい。
- 「現状」から「備えるべき要素」に飛んでいて、間が抜けている。「札幌市がどうなりたいのか」という議論をすべき。
- なぜ現状の札幌市の体制では実現できず、アーツカウンシルが必要なのかを議論する必要がある。

⑷　ワーキンググループについて(議題3)

【説明概要】

- 事務局より、ワーキンググループの参加者と開催予定について説明を行った。

【主な意見】

- 第1回ワーキンググループでは、札幌市の現状と課題、そこからどういう地域社会にしていきたいのか、なぜアーツカウンシルが必要かという点と結びつくような議論をしていただくことが大切。

【閉会】